

# 上宮寺通信

第二十五号

## 千里の道も一歩から

お盆を前にして、愛知県では独自の「緊急事態宣言」が出されました。その他の地域でも知事や市長がお盆期間中の帰省を考え直すように呼びかけ、今年には里帰りもできずお墓参りもできないという人が大勢いたのではないかと思えます。

お墓参りなどをして先祖を大事にするという思いは、古くから日本人の心に刻み込まれてきました。そして、それは仏教とも深い結びつきがあるといわれています。

しかし、浄土真宗の開祖である親鸞聖人はこんな言葉をのこされています。「親鸞は父母の孝

養(きょうよう)のためとて、一返にても念仏もうしたること、いまだそうらわず(親鸞は父母の供養のため)と思つて、念仏を申したことは一度もありません」(『歎異抄』第五条)。

この言葉だけをとらえて浄土真宗は先祖供養をしないのだ、だから法事も月参りもする意味はないのだという極論をいう人もいます。しかし、親鸞聖人が先祖を思う、亡き人を思う気持ちを否定されたとは思えません。

大学時代に少し茶道をかじったことがあります。たった一杯のお抹茶をたてるのに、なぜこんなにいろいろな作法をしなければいけないのか?と最初は全然わかりませんでした。しか

し、見よう見まねで覚えていくと、それまで所作を間違えないことに精一杯だったのが少しだけ余裕が出てきました。

そうすると、その一つひとつに客人をもてなすという意味が込められていることがなんとなく理解できるようになりました。

念仏の世界も同じです。最初から念仏の真意をわかる人はいません。法事であったり、月参りであったり、お墓参りのときに手を合やす機会をいただく。

最初は「父母の孝養のため」でいいのです。そこから少しずつ念仏の真意を得ていく。その作業が間法といわれ、念仏者の先達は大事にしてきたのです。

そして、その念仏の真意をい

ただくことができれば、「私」の父母、「私」の先祖というよくな狭い見にとらわれない、親鸞聖人の言葉でいえば「一切の有情はみなもうて世々生々の父母・兄弟なり(すべての生きとし生けるものが、現在、過去、未来において父母であり、兄弟である)」という広い仏様の視点をいただけるのです。



◆行事案内

上宮寺の行事

秋季彼岸会・永代経法要

9月8日(火) 午前10時

法要 引き続き 法話(一席)

法話 住職

※今年は午前のみ法要といたします。お斎(食事)、呈茶はございませんのでご了承ください。

※感染予防のため、マスクの着用にご協力いただきますようお願いいたします。

※今後の新型コロナウイルスの感染状況によっては変更する場合があります。

◆話題あれこれ

○お盆(盂蘭盆会) 法要にはコロナ禍にもかかわらず、たくさんの方にお参りをいただきありがとうございます。例年に比べると家族で来られる方が少なかったような気がします。今年は仕方ないのかもしれませんがね。また、連日、35℃を超える猛暑で、しかも換気のため、エアコンをかけていても本堂内は暑くてご迷惑をおかけしました。来年はいつものようなお盆を迎えることができるようになることを切に願っています。



○秋のお彼岸・永代経法要を9月8日(火)にお勤めします。今年も午前のみ法要とさせていただきます。10時からのお勤めの後、住職が少しお話をさせていただきます。11時半頃には終わる予定です。お斎(食事)代わりに参詣者の皆様にはパンをお配りしたいと考えています。皆様には感染予防としてマスク着用にご協力いただきますようお願いいたします。

○このコロナ禍でお寺の在り方も変わってきています。もし、リモートで法事などをご希望でしたらご相談ください。そういう知識は疎いのですが、できる限りの対応に努めさせていただきます。

○残暑、台風、新型コロナウイルス...、9月もどうか十分に気を付けてお過ごしください。

【雑感】

先日、京都の一乗寺(左京区)にある本願寺北山別院に行く機会がありました。親鸞聖人が29歳の時、比叡山から六角堂まで百日間の参籠に行く際に立ち寄ったといわれる所です。境内には身を清めたという「聖水」といわれる小さな池があります。若き聖人は背後にある比叡山から毎夜ここを通り六角堂へ向かわれたのだなあと思いを馳せることができました。ただ、ここから六角堂まではかなりの距離があり、その健脚には驚かされます。近くには詩仙堂や圓光寺もあり、観光にも良し。コロナが終息したら、ぜひ! (住職記)

【発行】

真宗大谷派

上宮寺

昭和区白金二丁目十九番十五号

☎052-871-0547